

# 高等学校 2 学年 総合的な探究の時間 学習指導案

濱岡桜

## 1. 単元名 「パレスチナ問題から考える世界と自分との関わり」

## 2. 単元の目標

### (1) 知識・技能

1. パレスチナ問題の歴史的背景や国際政治・経済構造との関係について基礎的に理解する
2. 複数資料を比較し、出典や立場性を踏まえて情報の信頼性を判断する技能を身に付ける

### (2) 思考力・判断力・表現力

1. 問題が長期化している要因を構造的に整理し、因果関係を踏まえて考察する
2. 根拠を明確にしながら自分の考えを論理的に表現する

### (3) 主体的に学習に取り組む態度

1. 問題を自分や日本社会と関わる課題として捉え、主体的に探究に取り組む
2. 多様な立場を理解しようとし、自らの立場で考え行動を模索する姿勢を養う

## 3. 単元について

### (1) 教材観

ガザ地区では 2023 年 10 月以降、7 万 1000 人以上のパレスチナ人がイスラエル軍によって殺害されたと報告されている（2025 年 12 月現在：UN OCHA）。また、国連の独立調査委員会（COI）は 2025 年 9 月の報告書において、イスラエルがガザでジェノサイドに該当する行為を行ったと認定した。これは現在進行中の最も深刻な人道的危機の一つである。しかし日本では、報道や SNS を通して断片的に情報に触れるにとどまり、「遠い国の出来事」として受け止められることも少なくない。

一方で、日本社会も決して無関係ではない。イスラエル産の原料を用いた製品がスーパーに並び、軍事進行に関連する企業が国内で事業を展開し、政府がイスラエル製の武器を数億円を投じて調達しようとするなど、政治・経済の面でつながりが存在している。グローバル化が進む現代において、国際問題は多層的な経済構造や外交関係を通じて私たちの生活と結びついている。本教材は、そうした「見えにくいつながり」に目を向けさせる素材として意義を持つ。

さらに、パレスチナ問題は単なる地域紛争ではなく、帝国主義・植民地主義の歴史の中で

形成された国際秩序と深く関わっている。先住民の自己決定権がどのように制限されてきたのか、土地や資源の支配はどのように決定されてきたのかという問いは、近代国家や国際社会の構造そのものを問い直す視点を含んでいる。また、難民問題や軍事・経済構造とも結びついており、複数の教科領域を横断して考察する必要がある。

このように、本単元は一つの地域課題を通して国際社会の構造を読み解く教材である。単なる出来事理解にとどまらず、複雑な問題を多面的に捉え、構造的に考える力を育むとともに、「自分と無関係ではない」という視点から社会を見つめ直す契機を与える点に、本教材の大きな意義がある。パレスチナ問題の理解を通じて「自分はどのような社会を望むのか」「その実現のためにどのような関わり方が可能か」という主体的な問いへと発展させることが本単元の大きなねらいである。

## (2) 生徒観

多くの生徒は、「戦争が起きているらしい」「宗教が関連しているようだ」というイメージを持っているが、詳しい状況や背景、要因は十分理解していない。一方で、人権や平和、国際問題への関心は高く、自分たちなりの答えを探そうとする姿勢が見られる。探究活動（文献調査・インタビュー・比較分析・発表）が有効に働く発達段階である。

## (3) 指導観

本単元の探究活動は、「なぜこの問題は百年以上にわたり続き、いまなお止まらないのか」という構造的な問いを中心に据えて展開する。

単元の導入では、まず関心を喚起し、問題を自分事として捉える契機をつくる。1920年以降のパレスチナでの土地の分割や住民の移動を、新聞紙と生徒自身を用いて体験的に再現する活動を行う。新聞紙を「土地」と見立て、外部からの決定や線引きによって面積が変化し、移動を余儀なくされる状況を疑似体験させる。この段階では地域名を伏せ、「ある地域で起きた出来事」として提示する。この体験活動を通して領土の縮小や移動の強制を身体的に実感した後、現在のガザ地区での深刻な人道的状況にも触れる。ただし衝撃的な情報を提示するだけで終わらせるのではなく、「なぜこのような事態が続いているのか」という問いへと転換することを意識する。感情的反応を否定せず受け止めながらも、そこから思考へ進む橋渡しを行う。誰が決定権を持ってきたのか、なぜ国際社会は止められないのか、暴力はなぜ繰り返されるのか、経済はどのように関与しているのか、といった疑問を対話を通じて出し合い、それらを整理することで探究の方向性を明確にする。

探究活動は、構造ごとに焦点化したテーマ別のグループ研究として行う。あるグループは「土地と自己決定権」という観点から国家成立の過程や難民問題を扱い、誰の権利が保障され、誰の権利が制限されてきたのかを検討する。別のグループは国際政治の観点から欧州諸国やアメリカの関与、国連の役割と限界を分析し、国際法がどのように機能し、あるいは機能していないのかを考察する。また、暴力の再生産という観点から安全保障や報復の論理を

検討するグループや、軍需産業やグローバル経済、日本の外交・防衛政策との関連を調べ、私たちの日常生活との接点を可視化するグループを設定する。いずれのグループも、出来事の善悪を単純に断定するのではなく、複数の立場や資料を比較しながら、因果関係や構造的背景を読み解くことを重視する。

各時間の冒頭では、資料の信頼性の確かめ方、事実と意見の区別、立場性を見抜き方など、情報リテラシーに関するミニレクチャーを行う。出典の明示、異なる立場の資料の比較などのルールを定める。教師は答えを提示するのではなく、「その情報は誰の立場から発信されているのか」「反対の見解は存在するか」と問い返すことで思考を深める役割を担う。

最終段階では、各グループの発表を通して明らかになった要因を全体で統合し、再び中心問いに立ち返る。歴史的背景、国際政治の力関係、経済構造、安全保障の論理、情報と世論など、多層的な要因を整理したうえで、生徒一人ひとりに「あなたはこの問題をどのような問題だと考えるか」「日本はどのような立場を取るべきだと思うか」「自分にはどのような関わり方があり得るか」を考えさせる。特定の立場に誘導するのではなく、根拠をもって自分の考えを形成できているかを評価の軸とする。また、それらを基に、さらにグループで自分たちは何ができるのか？を考え、実際に生徒にできることのアイディアを出し合う。

#### (4) ESD との関連

- 相互性：歴史的背景や国際関係を関連づけて理解する
- 公平性：難民・市民・子どもなど、立場の弱い人への視点を重視
- 連携性：各国の協力、国際機関の役割、提言の共有など社会のつながりを理解する

#### 【育てたい資質・能力】

- 批判的に考える：情報源の精査、検討
- 多面的・総合的に考える力：表面でなく歴史的視点や国際社会の中での関係などを取り入れて問題を読み解く
- 進んで参加する：問題について行動する経験を積む

#### 【関連する SDGs】

- 16：平和と公正
- 10：人や国の不平等

## 4. 単元の評価規準

観点	評価規準例
知識・技能	① パレスチナ問題の歴史・地理・国際関係について誤解なく理解している
	② 調査手法を適切に選び、資料を整理している
思考・判断・表現	③ 多面的な視点で情報を比較し、課題を明確化している
	④ SDGs や国際社会との関連を踏まえて情報をまとめ、発表している

観点

評価規準例

主体的に取り組む態度 ⑤ 探究課題を自ら設定し、調査・交流・発信に意欲的に取り組んでいる  
 ⑥ 国際問題の解決に向けて、自分にできる行動を考えようとしている

5. 学習の展開（全12時間構成）

配時	学習内容	学習活動	教師の支援・留意点	評価
2	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュース映像や SNS 投稿を見て、知っていること・感じたことを共有する</li> <li>グループ毎に問いを設定する</li> </ul>	参加型の導入セッションによって、生徒の学習意欲を高める 一面的理解を避けるため、複数資料を提示する 偏見やステレオタイプに注意しつつ、発言の多様性を尊重するとともに、生徒の心情に注意する	⑤
3	調査①	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な調査方法を学ぶ</li> <li>グループで調査の計画を立て、役割を分担する</li> <li>調査する</li> </ul>	信頼できる資料の選び方・情報リテラシーを指導 史実の整理を重視	②③ ⑤
2	調査②/ 発表準備①	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な情報のまとめ方と発表の仕方を学ぶ</li> </ul>	情報の取扱方法を重視し、出典を明らかにするなどの留意点を共有 発表の例をいくつか提示し、よりよい発表方法について指導	②③ ④⑤
1	発表準備②	<ul style="list-style-type: none"> <li>班毎に発表の練習をする</li> </ul>	発表の持ち時間や形式を再度確認	③④ ⑤
2	発表・議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班が調査成果を発表</li> <li>他の班の発表を聞き、自分の考えや新たな問いを立てる</li> </ul>	誰もが発言しやすい活発なディスカッションのための場づくりを心がける	④⑤
2	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちは何ができるのか？を班毎に考える</li> <li>探究活動を振り返り、自己評価をする</li> </ul>	学習成果と課題を確認し、次の探究への意欲を高める 実行可能な行動へつなげる	⑥

## 6. 準備物

- ニュース映像・地図資料・国際機関の報告書
- 調査ワークシート・自己評価シート
- ICT 機器（調査・発表用）
- 紙、ペン、クレヨン、ダンボール、テープ等（発表用）

## 7. 留意事項

- 単純化を避け、事実確認と多角的理解を重視する
- 学習者の感情の動きに十分配慮するとともに、意見の違いを尊重し、対話のルールを明確にする
- SDGs（特に目標 16「平和と公正をすべての人に」）との関連を意識づける